

日本気象学会2016年度総会議事録

日 時：2016年5月19日（木）13時30分～15時00分

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（東京都渋谷区）

出席理事：新野 宏，藤谷徳之助，岩崎俊樹，榎本 剛，近藤 豊，佐藤正樹，塩谷雅人，
竹内綾子，竹見哲也，中村健治，中村 尚，長谷部文雄，廣岡俊彦，藤部文昭，
三上正男，山田和孝，余田成男，以上17名（理事現在数20名）

出席監事：岡本幸三，高谷康太郎，以上2名

参加者数：個人会員の会場出席者104名，総会参加票による出席者1,451名，合計1,555名。
（個人会員現在総数3,241名（2016年4月8日現在））

決議の要件：社員総会の決議は，総社員の議決権の3分の1以上を有する社員が出席し，
出席社員の議決権の過半数をもって行う。（定款第17条）

議 事

1. 開会

山田理事より出席状況と決議の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に限健一会員（気象庁）を選出した。

3. 理事長挨拶

本大会の開催に尽力いただいた限健一大会委員長を始めとする気象庁の会員の皆様，講演企画委員会の皆様にお礼申し上げる。快適な会場で熱のこもった講演と議論が行われていることを大変嬉しく思う。

第38期の理事会は本日で終了し，この後の総会議案を承認すると第39期理事会が発足する。第38期では支部長会議と協力し，学会財政の見直しと会員増加対策，大会の在り方や運営，支部及び本部事務局体制，気象庁との連携強化等，学会運営の中期課題について検討してきた。

学会財政の見直しと会員増加対策については，会員数は1年当たり約1.2%の割合で減少している。今後，気象庁所属の職員の退職に伴う多数の退会が想定される。学会でも，委員会の運営費削減の努力や印刷費の下落により大幅な赤字を免れているが，今後赤字財政になる恐れがあるため，会員サービスの向上や入会の促進など会員増の対策を講ずるとともに，学会のサービスと学会費のバランスに関して，会員の意見を伺いながら検討を進めていく必要がある。

大会の在り方と運営体制に関しては，現行の年2回の大会の開催は維持し，春季大会の連合大会への移行は当面行わない方向で考えている。秋季大会の在り方について，正味のセッション増については2017年秋の札幌から試行する。ただし，開催規模の無制限な拡大を防ぐため，スペシャル・セッションと専門分科会のあり方や，モーニング・セッション，イブニング・セッションの導入，大会会場規模の適正化等について早急に検討を行う。また，大会における講演者については，スペシャル・セッションを除いて原則学会員とし，非会員の聴講者の参加費は若干値上げを行う予定である。また，支部の大会事務局業務負担軽減と安定的な大会実施のため，業務の一部外注化を実施する。

支部と本部の事務局体制については、現在と同様に、ある程度气象台に関与いただくが、支部事務局の負担軽減のため、事務局業務の外注化を進める。一方、本部事務局を強化し、大会運営に関する本部事務局の関与を高め、支部の負担軽減を図る。気象庁の虎ノ門移転に関連し、新庁舎に学会事務局が移転した場合の賃貸料の上昇と、各種委員会活動を気象庁所属の会員のボランティアに依存している学会の業務体制についても検討する必要があると思われる。

気象庁との関係強化について、これまでも異常気象分析検討会等で会員レベルで気象庁の業務に貢献してきたが、今後は防災気象情報の改善等、防災関連の活動でも気象庁と協力して推進することが望ましい。一方、気象庁には各種データ等をオープンにする方向で検討いただき、気象学会もデータ提供等のインフラ整備・データ活用の計画に積極的に関わって、世界を相手にした研究と気象業務の推進に寄与する必要がある。

大型研究計画に関するマスタープラン2017については、気象学会は「航空機観測による気候・地球システム研究の推進」の計画を提案した。地球惑星科学連合大会では日本学術会議地球惑星科学委員会によるヒアリングが予定されている。ここで評価されればマスタープランに掲載されるだけでなく、重点課題のヒアリングに臨むことになる。採用されるよう準備を進めている。会員の皆様の協力・支援をお願いする。

松野太郎名誉会員と立平良三名誉会員から学会に多額の寄付をいただいた。今期はその用途について名誉会員の意向を伺いながら、検討を進めてきた。立平名誉会員からの寄付に関しては、「気象学及び気象技術の学術的あるいは技術的成果をもって社会に多大なる貢献をなしたものを顕彰する岸保賞を「岸保・立平賞」と改名し、その顕彰に使用する方向で検討を進めている。松野名誉会員からの寄付についてはさらに検討を進める。

平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰で、東京大学大気海洋研究所の佐藤正樹会員と理化学研究所計算科学研究機構の富田浩文会員が開発部門の科学技術賞、東京大学先端科学技術研究センターの小坂優会員が若手科学賞を受賞された。受賞された方々にお祝い申し上げると共に、推薦に当たられた皆様に感謝申し上げます。

以上、当学会が抱える直近の課題について報告した。また、私事で恐縮だが、今回の総会をもって理事を退任する。2006年11月に木田秀次理事長が亡くなられてから理事長の業務を代行し、その後理事長を引き受けて9年間務めてきた。今後、新しい理事長のもとで、気象学会がますます発展することを祈念するとともに、これまで学会運営にご協力いただいた役員の皆様、会員の皆様に感謝申し上げます。

最後に、本大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

日本気象学会賞候補者推薦委員会委員長の余田理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

竹川暢之（首都大学東京）

先端計測に基づくエアロゾル生成過程に関する研究

三好建正（理化学研究所計算科学研究機構）

アンサンブルカルマンフィルタによるデータ同化の高度化に関する研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会委員長代理の中村健治理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

杉正人（気象研究所）

数値天気予報・長期予報の精度向上並びに気候・地球温暖化予測研究への諸貢献と推進

津田敏隆（京都大学生存圏研究所）

電波リモートセンシング技術による大気擾乱の観測的研究

(3) 岸保賞

岸保賞候補者推薦委員会委員長の岩崎理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

眞木雅之（鹿児島大学）、上田 博（名古屋大学）、中北英一（京都大学防災研究所）

X-バンド偏波レーダーによる降水観測技術の開発及び社会実装

(4) 気象集誌論文賞

気象集誌編集委員会委員長の佐藤正樹理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Shinya KOBAYASHI, Yukinari OTA, Yayoi HARADA, Ayataka EBITA, Masami MORIYA, Hirokatsu ONODA, Kazutoshi ONOGI, Hirotaka KAMAHORI, Chiaki KOBAYASHI, Hirokazu ENDO, Kengo MIYAOKA, Kiyotoshi TAKAHASHI

“The JRA-55 Reanalysis : General Specifications and Basic Characteristics”

Masaki SATOH, Yohei YAMADA, Masato SUGI, Chihiro KODAMA, Akira T. NODA

“Constraint on Future Change in Global Frequency of Tropical Cyclones due to Global Warming”

(5) SOLA論文賞

SOLA編集委員会委員長の竹見理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Satoshi MASUDA and Keiichi ISHIOKA

“A Method to Calculate Steady Lee-Wave Solutions with High-Accuracy”

5. 2016年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2015年度事業報告

山田理事から、研究会及び講演会等の開催と普及・啓発活動、機関誌等の刊行、研究業績の表彰、会員の異動状況、役員の選任及び解任、会議等の開催の事業報告があった。

議案2：2015年度決算報告

竹内理事から、公益法人会計基準に従った決算報告があった。赤字額が大きかつ

たことに関連して、今年度まで積み立てた日中韓共催国際会議開催経費（特定資産）を取り崩して支出したためなどと説明があった。

議案3：2015年度監査報告

岡本監事から、帳簿類の管理、収支、事業執行状況と会員数の動向等に関する監査結果が報告された。

2015年度の活動について、大会・研究会の開催と機関誌等の順調な刊行、教育・啓発活動の各地での活発な活動、「原子力関連施設の事故の際の放射性物質の大気拡散対策に関する意見交換会開催について」の要望発出などの社会への情報発信、学会運営の中期課題の中でも特に大会運営の改善に向けた取り組み、初等中等教育における理科離れへの対応として、評議員会で対策を議論するとともに、ジュニアセッションの開催などの一連の活動について高い評価を受けた。一方、会員数の減少傾向については、継続的な議論の必要性が指摘された。

議案4：第39期役員を選任

新野理事長から、第39期役員候補者選挙における当選者並びに理事会からの推薦による理事選任候補者について説明があった。候補者毎の議案は次の通り。

・役員候補者選挙において当選した理事選任候補者

議案4-1 榎本 剛

議案4-2 竹見 哲也

議案4-3 藤部 文昭

議案4-4 佐藤 薫

議案4-5 中村 尚

議案4-6 仲江川敏之

議案4-7 廣岡 俊彦

議案4-8 堀之内 武

議案4-9 岩崎 俊樹

議案4-10 渡部 雅浩

議案4-11 塩谷 雅人

議案4-12 近藤 豊

議案4-13 余田 成男

議案4-14 高薮 出

議案4-15 坪木 和久

議案4-16 佐藤 正樹

議案4-17 平松 信昭

・理事会からの推薦による理事選任候補者（細則第22条第7項関連）

議案4-18 石原 幸司

議案4-19 山田 和孝

議案4-20 瀬上 哲秀

・役員候補者選挙において当選した監事選任候補者

議案4-21 高谷康太郎

議案4-22 鈴木 靖

(2) 質疑応答

意見なし.

6. 採択

議案1, 2, 3, 4について, 採決の結果, 以下のように賛成多数で承認された.

有効総会参加票1,307票のうち, 理事会案賛成444票, 議案別意思表示38票, 議長委任824票及び個人会員委任1票で, 議長委任票及び個人会員委任票は全て理事会案に賛成であった. また, 会場に出席した個人会員104名は全て理事会案に賛成であった.

議案1	: 賛成 1,409, 反対 1, 保留 1
議案2	: 賛成 1,410, 反対 0, 保留 1
議案3	: 賛成 1,410, 反対 0, 保留 1
議案4-1	: 賛成 1,409, 反対 0, 保留 2
議案4-2	: 賛成 1,408, 反対 0, 保留 3
議案4-3	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-4	: 賛成 1,407, 反対 1, 保留 3
議案4-5	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-6	: 賛成 1,407, 反対 1, 保留 3
議案4-7	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-8	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-9	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-10	: 賛成 1,407, 反対 1, 保留 3
議案4-11	: 賛成 1,409, 反対 0, 保留 2
議案4-12	: 賛成 1,407, 反対 1, 保留 3
議案4-13	: 賛成 1,409, 反対 0, 保留 2
議案4-14	: 賛成 1,407, 反対 2, 保留 2
議案4-15	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-16	: 賛成 1,408, 反対 1, 保留 2
議案4-17	: 賛成 1,404, 反対 3, 保留 4
議案4-18	: 賛成 1,403, 反対 3, 保留 5
議案4-19	: 賛成 1,404, 反対 2, 保留 5
議案4-20	: 賛成 1,404, 反対 3, 保留 4
議案4-21	: 賛成 1,409, 反対 0, 保留 2
議案4-22	: 賛成 1,406, 反対 2, 保留 3

7. 2016年度総会報告事項

(1) 内容説明

報告1: 2016年度事業計画

山田理事から, 従来の事業を継続して実施することに加えて, 財政・支部体制・会員制度等について引き続き検討を行うこと, 学会サーバの整備を進めることが説明された.

報告2: 2016年度収支予算

竹内理事から, 公益法人会計基準に従って予算を組んだこと, 受取会費を公益目的

事業会計と法人会計に2015年度と同じ割合で配分したこと、次回の日本開催のアジア気象会議（ACM；日中韓共催国際会議を発展・改称）に向けて新たに40万円ずつ特定資産として積み立てることなどの説明があった。

(2) 質疑応答

2016年度事業計画が審議事項でない点について質問があった。藤谷理事から、過去に（「天気」2013年7月号）記載しているとおり、新公益法人制度では、事業計画並びに予算案について、各事業年度開始の日の前日までに作成し、内閣府公益認定等委員会に提出することとなっており、総会審議事項とすると、現在の年1回の総会開催体制では、事業年度開始の日の前日までに作成・決定することが不可能であること、また、多くの公益法人においては、事業計画並びに予算案は理事会承認事項としていると回答された。

8. 議事録署名人の指名

議事録署名人に藤原弘章会員（気象庁）と比良咲絵会員（気象庁）を指名したところ、異議なく承認された。

9. 議長解任

隈議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

10. 閉会

山田理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成28年6月27日

総会議長 隈 健 一

出席者代表 藤 原 弘 章

出席者代表 比 良 咲 絵